

次世代につなげる森林づくり



R5. 5. 25 NO. 47号

「集約化試験団地」試験結果の中間とりまとめ報告現地検討会



いの町 葛籠谷黒滝山国有林 (5月16日)

薫風わたる5月16日、林業に関する各種試験の効率的な実施及び試験成果の円滑な普及に取り組むため、いの町の葛籠谷黒滝山国有林（嶺北署）に設定した「集約化試験団地」において、各試験の調査データを現地で確認しながら、今後に期待される成果や解決すべき課題等について確認するため、関係する自治体や事業体等の皆様（45名）に参加いただき検討会を開催しました。

当局業務管理官から「再造林の低コスト化を図っていく立場の皆様方と意見交換を行い、今後の技術開発、森林整備事業に取り組んでいきたい」との開会挨拶の後、皆さんと一緒に設定している5種類の試験地（①早生樹の造林技術の確立試験 ②地拵省略における苗木（大苗・普通苗）成長調査等比較試験 ③大苗と施肥を使用した低コスト造林試験 ④下刈時期の違いによる検証試験 ⑤獣害対策の検証試験（単木保護・防護柵））それぞれ現地を確認しつつ、概要・調査データの説明を行い、同一施業地内で様々な試験の比較が容易にできる事が良いなどの声を聞きながら意見交換を行いました。



開会の様子



試験区説明（獣害対策試験地）



現地を確認しながらの意見交換会

現地での意見交換時に出された意見

- ・芽かきは実際必要か否か。低コスト造林を目指すのであれば作業は必要ないのではないか（早生樹の試験区）
- ・現在、国有林では早生樹の用途を決めずに試験的に植栽している状況なのか（早生樹の試験区）
- ・ノウサギの侵入が一回だったということだが、人が巡回し確認しているのか（獣害対策の試験区）
- ・ネットの重量と資材単価について教えてほしい（獣害対策の試験区）

アンケート内での意見

- ・国有林として外来種の産業造林に問題ないことについてしっかりとした論理を用意しておくことが必要と思う
- ・大苗の生産は受注生産でならば対応できる可能性はあるが、150cc大苗では形状比が悪く生産し難い
- ・説明の対象となる植栽木にはわかりやすいようテープ表示をして欲しかった
- ・本試験地の施業を行った森林組合として、育成段階の現地を見られて、勉強になった

最後に森林整備部長から、「今後とも皆様とともに、森林の整備、管理、林業産業成長化、再生に向けて一緒に取り組んでいけたらと考えております。」と講評があり現地検討会を終了しました。

当局も、これからの取りまとめに向けて、今回、頂きましたご意見やアドバイス等を反映しつつ、最終的に得られた結果を林業関係者の方々に利用していただけるよう、引き続き各試験に取り組んでまいります。



各種試験調査のお問い合わせは
四国森林管理局 森林技術・支援センター

☎ 088-821-2250
e-mail shikoku_gijyutu@maff.go.jp